

仲間とつながり、ともに夢に向かって。

Partners

パートナーズ

vol.
2

Oct. 2020

Partners
パートナーズ
vol.2

また、一緒に歌いたい！



「人も街もみんなつながれ活動の輪！」

神戸みらい学習室・NPO法人輝すすらん・下町レトロに首っ丈の会

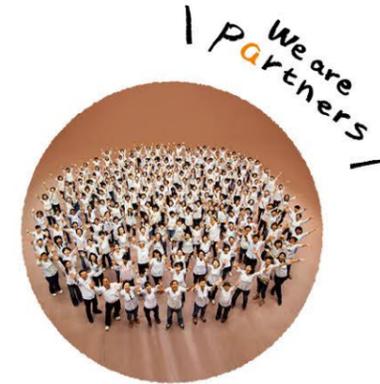
つながりTime 寺尾 仁志さん、いしはらきさん

パートナーズ集まれ 神戸発 おやこ防災教室 など

文芸講座 | 居住支援事業



2020年10月発行 発行人 玉木貴代子 〒651-0061 神戸市中央区上野井通1-5-14-101 TEL / 078-585-9180 FAX / 078-271-0089 定価100円



2007年に誕生した「human core」。約700人のメンバーで構成され、歌を通して人とつながり、歌の持つ力で日本中・世界中をつなげることをミッションに日々歌い続けています。阪神・淡路大震災の祈念コンサートは、今年1月12日で11回目を数えました。震災を知らない人や世代が増え、風化も懸念される中、「神戸では世代を超えてコンサートに参加してくれる方が大勢おられ『震災を忘れない』という想いが紡がれているのを感じました」と代表の寺尾 仁志さんは話します。

読者 PRESENT

希望するプレゼントと住所、氏名、電話番号を明記の上、Eメールでご応募ください。
[E-mail] partners.kobeclub@gmail.com

※締め切り 2020年11月30日(月)※必着
※当選は商品の発送をもって代えさせていただきます。
※お寄せいただいた個人情報は、プレゼントの発送以外には利用いたしません。

A 「イギリスの素敵」
(いしはらきの 著) 1名

B 「デンマークの女性が輝いているわけ」
(澤渡夏代プラント/小島ブンゴード孝子 著) 1名

C 「2.12 バレンタインコンサート」
ペアチケット 5名

一般社団法人パートナーズ

すべての子どもたちにも 等しく教育の機会を！

経済的な理由や家庭の事情などにより家庭での学習活動が困難な児童生徒や、学習習慣が十分に身に付いていない児童生徒に対して、地域による学習支援の取り組みが増えています。

今回は、神戸市内2カ所において、中学生を対象に無料で学習支援活動を展開する「神戸みらい学習室」を、パートナーズの特派員、河野真紀さんがリポートしました。



神戸みらい学習室

2017年8月に神戸市西区の大学共同利用施設UNITYで始まり、翌年8月には東灘区のコープは〜とらんどハイム本山1階でも開校。2020年9月現在の生徒数は、学園都市校30人、本山校6人。講師や運営スタッフは無償ボランティアで、日曜日の13時半〜16時半に活動しています。



神戸市職員有志の 地域貢献活動として スタート

「神戸みらい学習室」の講師や運営スタッフは無償ボランティアです。講師には灘高校の生徒さんから82歳の教育経験者の方まで幅広い人材が登録されており、生徒との相性を見極めながら、個々に寄り添った学習支援を行っています。

この活動の立ち上げ時から運営スタッフの中枢を担っているのが、神戸市職員有志の皆さんです。代表の佐々木宏昌さんは、神戸市職員として、税(固定資産)、福祉(生活保護)、子育て支援(保育所整備)、企業誘致などさま



ざまな分野の業務を担当してきました。中でも、特に心を引かれてきたのが福祉・子育て(貧困の連鎖)の問題。職務を通じて、シングルマザーの家庭や生活保護を受けている方々に出会い、数多くの問題を目の当たりにしたといいます。

佐々木さん自身、塾に通えず苦労した経験もあり、「職務を通じて得た知識や経験を生かして、未来を担う子どもたちのために、職務外でも地域の課題解決に積極的に取り組んでいきたい」と考え、この学習室を立ち上げました。



代表の佐々木宏昌さん

支援の輪を広げるため 学習支援活動団体が 連絡協議会を設立

夏休みごろで部活が終了する中学3年生が本格的な受験態勢に入る大切な時期に、家庭の事情等で教育環境が異なると

いう現状は、地域を問わず共通する最大の課題です。その解決に向けて、子どもたちへの無償学習支援に取り組みする学習支援活動団体が互いのノウハウや課題を共有して連携を図るため、2018年10月に「神戸学習支援連絡協議会」が発足しました。「神戸みらい学習室」をはじめ、神戸市の子どもたちを学習支援している7団体を集まり、共同研修会(5ページ参照)を開いています。

このネットワークを通じて、市民の方々が学習支援活動の立ち上げや運営のノウハウ、ボランティアに参加できる仕組みを共有することで、地域において、自立に困難を抱える子どもたちに対する学習支援の広がりが期待されています。



ForRent シェアオフィス Wi-Fi 完備 テレワーク拠点に



ひょうご居住支援事業

神戸コミュニティラボは兵庫県より居住支援法人(兵庫支0010号)の指定を受けて要配慮者のための居住支援活動を行っています。
入居前相談・入居手続き同行支援・転居支援等

法人事務所 〒651-0061 神戸市中央区上筒井通1-5-14-101
サテライト 〒650-0022 神戸市中央区元町通4-2-14
こうべまちdくり会館ワークスペース501
連絡先 078-585-9180 E-mail partners_kobeclub@gmail.com
HP http://www.partners-kobe.com

神戸市中央区上筒井通1-5-14ベレオ王子公園
(神戸文学館から西へ徒歩1分)
TEL/FAX 078-271-0089 / 070-5341-3539(Kiyomichi)

神戸コミュニティラボ(一般社団法人パートナーズ)

神戸コミュニティラボ(一般社団法人パートナーズ) オーナーズ倶楽部

概要
*住所 神戸市灘区水道筋6丁目
*最寄り駅 阪急神戸線/王子公園駅 徒歩1分
*種別 高齢者マンション
*築年月日 2008年6月
*構造 鉄筋コンクリート造
*階建 5階建(全戸16戸)
*TVインターフォン・BSアンテナ
*インターネット対応
*現状 体験入居ルーム有
*見守り・生活支援サービス完備
*セーフティネット住宅登録済

花たば 3つの安心
*全戸バリアフリー・全館スプリンクラー設置
*24時間緊急通報システム
*オール電化、エアコン完備、浴室乾燥機
クローゼット、洗浄暖房便座付トイレ、IHクッキングヒーター

お問合せ
NPO法人花たば
TEL 078-801-6632



すべての子どもたちに
等しく教育の機会を！

地域の大人が
子どもに寄り添い
励まし、伴走すること

「神戸みらい学習室」では学習支援だけでなく、毎月「夢ゼミ」という大学生や社会人からのプレゼンテーションがあります。講師を務める先輩が、留学などの大学生活や学ぶことの意義、勉強のポイントなどを自身の体験を踏まえて伝え、共有する機会としています。これが子どもたちの学習意欲を高め、将来の展望を思い描けるようになったり、やり抜く力や他人への優しさなどが身に付いたりということ



つながっているそうです。高校合格という目標の達成はもちろん、「高校受験を控えた一番大変な時期に、地域の大人が寄り添い、励まし、伴走することで、子どもたちにお金ではない大切なものを感じ取ってほしい」と佐々木さん。「この体験が子どもたちの人生により良い影響を与え、また一人一人への寄り添いが社会をより良い方向へ変化させると信じています」と話します。

貧困の連鎖や負の社会的相続を断ち切るために、また何よりも、若くして苦勞した子どもたちが社会的意義のある新たな価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす可能性が高いことを証明するために、個々に寄り添う伴走型のサポートは今後さらに必要とされて



います。子どもたちの学習意欲の向上が、講師やスタッフの大きな喜びにつながっているこの学習室。活動が継続できるような応援したいものです。

神戸みらい学習室のホームページ
<https://www.kobemirai.com/>

マンスリー(月額)継続寄付の受け付けサイト
<https://congrant.com/project/kobemirai/607>

神戸学習支援連絡協議会共同研修会

地域貢献する意味について 貧困問題の第一人者が講演



神戸市西区の大学共同利用施設UNITで開かれた共同研修会では、東京大学先端科学技術研究センター(人間支援専攻分野)特任教授の湯浅誠氏が「地域貢献する意味」をテーマに講演しました。

派遣村や子ども食堂をはじめ貧困問題などの第一人者である湯浅氏の知見と経験に基づくお話は、参加者約60人を魅了し、終了予定時刻を過ぎても質疑が相次ぐものでした。

昭和期の「成長」、平成の「成熟」と時代が進んできた中で、令和の社会の展望を「インクルーシブ」というキーワードで示しました。つまり、昭和モデル崩壊の否認、から、違いを受容(すみ分け)してきた社会が、さらに



多様性の尊重(包含)という段階に入っていくとし、この間政府が一貫して掲げる「一億総活躍社会(2014)」や、SDGsにおけるInclusive Growth(インクルーシブ)グロウス、誰も取り残さない成長の考え方を解説しました。

そして、そうした社会的背景の理解に基づき、湯浅氏が取り組んでいる子ども食堂、東京都の施策も紹介。今回の共同研修会のテーマでもある「地域貢献する意味」について、運営者やボランティアとして学習支援に関わる者だけでなく、多様な地域活動に携わる方や一般参加者にとっても考える機会になりました。

ひょうごん居住支援グループ

いろんな理由で住むところを見つけるのが難しい方に、住宅探しや手続きなど、入居までのお手伝いをしています。



- ひょうごん福祉ネットワーク居住支援グループ
兵庫県の指定を受け、居住支援活動を行っています。
- ＜ひょうごん居住支援法人＞
- *兵居支0006号 公益財団法人YWCA まごの手
 - *兵居支0007号 認定NPO法人 東灘地域助け合いネットワーク
 - *兵居支0008号 NPO法人 西須摩だんらん
 - *兵居支0010号 神戸コミュニティラボ (一般社団法人パートナーズ)
 - *兵居支0012号 NPO法人 神戸西助け合いネットワーク
- ＜ひょうごん居住支援団体発掘・育成事業団体＞
- *NPO法人花たば
 - *認定NPO法人はんしん高齢者くらしの相談室
 - *鶴甲サポートセンター

居住支援法人とは(兵庫県)
居住支援法人とは、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律(通称：住宅セーフティネット法)に基づき、居住支援を行う法人として、都道府県が指定するものです。
都道府県は、住宅確保要配慮者の居住支援に係る新たな担い手として、団体を指定することが可能となっています。

ひょうごん福祉ネットは 「住み慣れた家・地域で暮らし続けたい」を応援しています！

「ひょうごん福祉ネット」は、地域で住民同士助け合う活動を実施する福祉系NPO 21団体が情報を共有し課題の解決を図ることで、各団体の経営力と提供するサービスの質を向上させ、併せて制度外事業の社会的認知を高めることを目的としています。誰もが住み慣れたまちで、尊厳を持って暮らし続けることの出来るコミュニティづくりを応援します。

ひょうごん福祉ネット事務局
神戸市東灘区御影本町6-15-17
御影水館 東灘地域助け合いネットワーク内
TEL 078-843-4029 FAX 078-842-2907
代表 村山メイ子 (認特) 東灘地域助け合いネットワーク
副代表 須見恭子 (特活) 花たば
副代表 宗政美穂 (特活) 福祉ネットワーク西須摩だんらん



輝すずらん 設立20年

助け合い、支え合う地域に
NPO法人

Since 1998

神戸市北区に拠点を置く「NPO法人輝すずらん」。阪神・淡路大震災では避難所や仮設住宅でのボランティア活動で助け合い、支え合いの大切さを痛感し、その貴重な経験を地域の力として継続的な活動を行うために2000年3月、設立されました。あれから20年。共に活動したパートナーズ編集部メンバーが、かつての仲間にお話を伺いました。



tea party



1967年に住宅開発が始まった新興住宅地も、高齢化が進み始めていました。飲食店もほとんどない町で、「約束なしに出会える場所」としてオープンしました。年間40回の活動を支えるのは「泉台の玉ちゃん」の別名を持つ名物女将、2代目理事長の古谷富久子さん。「活動費なんて…」とボランティア精神あふれるスタッフ。茶屋は今なお続いています。高齢化が進みます。集まっていた方々もさまざまな事情で来られなくなってきました。そこで、今後の取り組みとして障害者、認知症者、介護をしている方、ちょっと暇のある方々に来ていただき、みんなでわいわいがやがや話ができる場所になれば…と思っています。そのため、われわれスタッフが勉強しなくてはなりません。これからの私たち自身の居場所をつくるためにも泉台茶屋を続けていけるよう、地域の皆さんと一緒に頑張ります。

ふれあい喫茶
「泉台茶屋」

Since 1998

Since 1995



生活支援「かんくわぶ」

神戸市北区の「しあわせの村」には、リハビリテーション病院など高齢者や障がい者のための素晴らしい施設があります。しかし、利用するために「公共交通機関を乗り継いで行くのは大変で、タクシーを利用すると費用が…」という声。震災後の交通機関が混乱している中、パーキンソン病を患うひとり暮らしの方のリハビリテーション病院にお供することをきっかけに、家事援助や外出介助などの生活支援の活動が始まりました。高齢化が進むと、ちょっとした庭木の手入れも困難になってきたという声が多くなってきました。2008年、「簡単な剪定をお願いしたい」との要請があり、地域農園(すずらんコミュニティガーデン)のグループに剪定作業を担ってもらいました。地域の顔見知りの男性が剪定作業に来てくれるということで、利用者の方に喜ばれています。また、簡単な家事支援、外出介助の依頼もあります。スタッフも高齢者になっている今、若い世代にうまくバトンタッチできれば幸いです。

配食サービス

Since 2000

「すずらん便」
公的介護保険制度が導入された2000年当初、「なんで介護保険に配食サービスがないの？」との声に始まりました。四季の野菜を取り入れたお弁当を5人で50食、毎週木曜日の夕食にお届けしています。高齢者だけでなく「必要な方に必要なサービス」をモットーに、緩やかな枠組みで取り組んでいます。始めた時は、1週間に一度の配達で忘れられないかと心配でした。今では「おいしかったよ」「楽しみにしています」と声を掛けていただき、頑張らねばと気合が入ります。ただ、担い手の高齢化に伴い、先行きが心配です。

Let's exercise!



Since 2000

生きがい対応型・予防デイサービス

毎週金曜日の午前10時から午後3時まで、泉台集会所におひとりで通所できる利用者の方々と楽しく過ごしています。2000年、それまで社会福祉法人等の施設に委ねられていたデイサービス事業をNPO法人も担えるようになりました。2017年には地域拠点型一般介護予防事業と名称が変わり、その事業の下、デイサービス活動を実施しています。音楽療法、フレイル予防講座、リズム体操、かんたんヨガ教室、趣味活動などを取り入れています。

また、2003年の秋から開催されている地域の音楽交流会「ティータムコンサート」に、毎年ハンドベル演奏で参加しています。その練習にも余念がありません。みんなで一緒にできる喜び。これからも、ひきこもりがちなお年寄りの生きがいづくりを応援していきたいと思っています。

古谷富久子理事長のはなし

阪神・淡路大震災から25年、泉台の皆さまに寄り添い、始めたことが今日に至っています。高齢者が増え、スタッフも年齢を重ねました。自分ひとりでいろいろなことを抱え込まず、私たちがご相談くだされば幸いです。互いに笑顔を忘れず、美しく暮らせるよう願っています。

予告 バレンタインコンサート2021 素敵な☆スクリーンミュージック♪

日時 2021. 2. 12 (金) 開場 17:30 開演 18:00 (公演時間第1部・第2部 合計110分)
会場 神戸新聞松方ホール
出演 山田直毅 小倉祐樹 羽生知央 藤川隼史
河野仁美 清水美世子 うしおみやこ 播摩夏奈
小林俊介 (Percussion) 小林順子 (Piano) 藤中俊子 (Keyboard)
企画 山田直毅

チケット等の詳細につきましては準備が整い次第ホームページでお知らせいたします。
HP www.partners-kobe.com

主催 パートナース神戸倶楽部 (一般社団法人パートナーズ)
後援 神戸新聞文化財団 松方ホール「コロナ禍対策・音楽家緊急支援コンサート」

ささゆりの会

since 2020.7.7



民踊倶楽部
毎月第1・3火曜日午後練習会場 北神近郊



旬グルメ倶楽部
ウド・筍・鮎・鱧・山菜・蟹 兵庫 旬のめぐみを堪能



旅倶楽部
「マイクロツーリズム」身近な魅力再発見の旅

みんなで創る新しい倶楽部活動 会員募集中!

代表 飯屋美代子
民踊指導者 古舞弘子・藤原アサ子
事務局 玉木貴代子
北神戸田園スポーツ公園内
森の小さなカフェレストラン「グローブ」
神戸市北区有野町二丁目753-1
☎ 078-982-5901
会費 月1,000円



特集3! おかんアートの魅力を発信

下町レトロに首っ丈の会

神戸市兵庫区や長田区を中心に、「下町をパラダイスにしよう」を合言葉に活動している「下町レトロに首っ丈の会」。どこの家にもあるおかん(母)の手芸作品に着目し、おかんアートの魅力を展覧会などで伝えています。



おかんアート
種明かしの部屋!
HP <https://citamatiretro.wixsite.com/okanart>



下町で出会った おかんアーティストたち

「捨てるのはもったいない」。家にある空き缶や余った毛糸、端切れなどをユニークで温かみのある作品に変えていくおかんたち。「下町レトロに首っ丈の会」では、そんなおかんや作品を直接見て何かを感じてほしいという思いで2009年から、おかんアート展を開催しています。

「下町レトロに首っ丈の会」はもともと、神戸市の兵庫区、長田区という下町に点在するレトロな空間や、そこで生活を営む人々を発掘し、魅力を発信する下町レトロ地図の発行や下町遠足ツアーなどを2005年から行ってきました。

下町遠足ツアーで訪問する商店や工場、住宅などの空間には、どこかで見たとのある手芸作品が何事もなかったかのように存在していました。メンバーたちはその存在が気になり始め、作っている人を発掘することに。

すると、一見普通のおかんやおとんたちが、自宅の一部に作業場をつくり、日常生活の中の細切れの時間を活用して芸術家

顔負けのストイックさで創作活動をしていることが見えてきました。

「このような地域の宝は発信するしかありません。ということ、おかんアート、さらには、おかんアーティストに首っ丈な状態に陥りました」と会長の伊藤由紀さんは経緯を説明します。

現代アートとのコラボレーションに挑む

今回、新たな試みとして取り組んだのが、8月8日から30日まで京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAで開催された「おかんアートと現代アートをいっしょに展示する企画展」です。現代アーティスト、フジタマさんの声掛けにより実現したもので、「下町レトロに首っ丈の会」は「おかんアートチーム」として参加しました。

毎年神戸で開催してきた「おかんアートとハンドメイド展」でおなじみの、○○さんの作品といった作者の固有名詞を取り払い、現代アートとおかん

アートをこちゃまぜにして分類・展示。フジタマさんいわく「属性を取り除く」展示が試みられました。

ギャラリ入り口の死角となる壁面の隅に「おかんアートの作業場」を再現し、「おかんアート種明かしの部屋」を担当。「ひとくりに扱われがちなおかんアートですが、作品を見る人たちは、作者である○○さんという属性に応じて、おかんアートを多様な意味で捉えていることが分かりました」と現場を担当した山下香さんは話します。

コロナ禍によるテレワークやオンライン授業の普及で、リアルとバーチャルの境界があいまいになっている今、展覧会を訪れた人は、リアルな空間であるギャラリーと、バーチャルな「種明かしの部屋」を結び付けながら、おかんアートの種明かしを楽しんだようです。



神戸コミュニティラボ
(一般社団法人パートナーズ)

× 居住支援事業のパートナー

居住支援事業 相談窓口を開設
毎週水曜日13:00~16:00
同時開催
美味しい安全・安心を食卓に
神戸近郊有機・減農薬野菜販売

Gallery
Modernark
www.chronicle.co.jp
6500012
3-11-15 kitanagasa-dori chuo-ku, kobe

神戸コミュニティラボ
(一般社団法人パートナーズ)

× 居住支援事業のパートナー



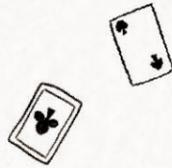
株式会社Casa
お部屋の入居者様に豊かで安心な生活を送って
いただくためのサービスを提供します。

Partner

いしはらきの

Ishihara Keno

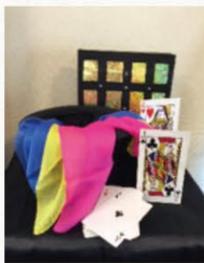
1954年鹿児島県生まれ。神戸市在住。日本で約20年間の会社勤務を経て、夫の転勤で英国に移り住み、主婦・会社員として生活。その後、ドイツへの転勤にも同行。帰国後は消費生活相談員として勤務。現在は消費者講座の講師として啓発活動をしながら、マジックで驚きを届けたいと日々修業中。



生協で買ひ物の帰り、会議室のドアの「私もマジシャン」と書いた張り紙に、ふと目がいった。ちょうど顔の高さにあった小窓からは、先生らしき上品な紳士が2人と、6人ぐらゐの生徒の背中が見えた。

すぐに先生の一人が前のテーブル席に移動した。先生は黒いフェルトをサツと敷き、その上にトランプを扇形にスーッと広げ、ハートのカードを1枚抜いた。しっかりとハートであることを生徒に見せた。次に裏返してフツと息を吹きかけ、生徒のほうに、もう一度向けた。あら不思議！ハートがクラブに変わっていた！生徒の背中中は前のめり。私の顔もガラスの小窓にくっついた。その瞬間、先生と視線が合ってしまった。もう一人の先生も私に気付き、ドアを開けてくれた。これが私とマジックとの出会いである。

この日から約12年。仲間と一緒に研究や練習を重ね、ボランティアのマジシャンとして、児童館、老人ホーム、病院などを訪問している。その中で、特に演じていて楽しいと思うのは、子どもたちの前だ。キラキラした目を演者に向け、「ここから前にはいかないでね！」



と書いて張ったロープも押されてゆがむ。驚いた顔を見ると、こちらもうれしくなり一段と気合が入る。

しかし、毎回うまくいくわけではない。ちよつとこが見せ場！という時に、「タネみえた！」「おっしょー！」「ワシの杖はどこや？」

なんていう声が客席から聞こえることもある。でも、こころが踏ん張りどころだ。何も聞こえなかったかのように演技を続ける。そして最後は、ここぞとばかりに不思議さや華やかさを披露する。決めポーズで5秒静止し、ゆっくりとお辞儀をする。やがて拍手と笑顔に包まれる。「マジックに合えよかった」と思う瞬間だ。

さて、最後まで、これを読んでくださったあなた！マジックの世界で楽しい時間を一緒にしませんか？自分の演技で、拍手と笑顔が起るなんて、素敵ですよ！

趣味の時間 あなたもマジシャンに！



Partner

寺尾 仁志

Terao Hitoshi

human note代表



1990年代初頭、シンガーの活動開始。アカペラ、ゴスペルグループでの経験を経て2002年シンガーソングライターに。ラジオパーソナリティーとしてもラジオ関西、FM大阪などで番組を持つ。2007年human note結成。

「震災を忘れない」「復興とは何か」。今思うと、本当の意味さえあまり深く考えずに、2010年から始めた阪神・淡路大震災の祈念コンサートだったかもしれません。

それを変えたのは、翌年に起きた東日本大震災。震災1カ月半後、私は初めて宮城県南三陸町を訪れました。「まずは自分の体を使って何かしたい」。瓦礫の撤去や泥に埋もれた写真を洗う作業をしていた時、「よかったら避難所で歌ってもらえないか」とお話をいただきました。「被災された方々の前で歌える！」。歌い手として、歌を聞いてもらえる喜びを感じながら避難所に向かいました。中学校の広い体育館で、プライベートもままならない環境で生活されている疲れ切った方々がそこにはいらつていました。

「ただの自己満足、偽善ではないだろうか」。でも傷ついた方を歌で少しでも勇気づけたい。マイクを持った瞬間、葛藤が起こりました。その時の映像を見ると、声も出ず、音程も安定しないまま歌っている自分があります。心が定まらず、葛藤しながら歌うあの時の気持ちが、今もよみがえります。

「ここで歌うのならば、この町に通い続けよう。そして、この町の方々と共に歌うことにつながりを深めていこう」

と、ひたすら歌いました。

「心に響きました。忘れていたことをたくさん思い出させてもらいました」と一人の女子高生が伝えてくれたこと。「心が少し楽になりました。こんな時だからこそ、歌わないといけませんね」と年配の女性が話してくれたこと。「やっぱり歌のチカラは必要なのだ。頑張れ！とただ一方的に歌うのではなく、被災された方と一緒に歌い、その歌が日常に残ることによって向くことができる。それが自分のできる復興のお手伝いなのだ！」。そう確信しました。

私たち human note の活動理念は「幸せは贈る方にこそ贈られる。Give Happiness」。です。本当の幸せとは、与えられるものではなく、与えようとする者に与えられるのだ、と私は思っているからです。ただ「頑張れ！」と言われるのではなく、当たり前を失った方が同じ境遇の方に歌で「一緒に頑張ろう！」と発信する。そんな想いが human note の被災地活動「被災された方々と共に歌うこと」につながっています。これからも、神戸、東北をはじめとする被災地域、そして世界中のさまざまな環境に生きる方々と一緒に歌うことで、世界中の人たちとつながっていきたいと思っています。

共に歌おう！歌のチカラで復興をお手伝い



イギリスの素敵

著者 いしはらきの

観光旅行では分からない普段着のイギリスをご紹介します。あなたも本の中で、著者と一緒にパブ、美容院、語学学校に行き、ご近所のかたとお話しませんか？イギリス暮らしの「へえー！」「えっ！そうなの？」「なるほど」が満載です。



ひとりひとりに物語があり
ひとりひとりにメロディがある。
笑いたいひとにも
泣きたいひとにも
感動を届けます!!

Join Us メンバー募集
human noteでは随時、メンバーを募集しています！
歌いたい人、コンサート企画・運営したい人、オリジナルグッズの企画・販売したい人...
どんな形でもご参加いただけます！

パラスポーツ応援プロジェクト「プロジェクトビギニング」
eginnin
http://www.project-beginning.info/

あなたの声援がアスリートを感動させる！
歌でアスリートと共にもあなたも世界を征服しよう！

「プロジェクトビギニング」は (Human note) と「アダプトスポーツサポートセンター / ASSC (アスク)」が
共にパラスポーツの夢を応援していくプロジェクトです。

「ウタのある人生」
一緒に楽しみましょう♪



MaKids

ロボットプログラミング教室 MaKids

子どもたちの個性を大切に 「考える力」「伝える力」を育む

MaKidsについて

MaKidsは、小学生を対象とする少人数制のロボットプログラミング教室です。「世界中の個性をあふれさせる」というミッションの下、2017年4月に開講。これまで全国500人以上の子どもたちにプログラミング教育を届けてきました。単にプログラミングについての知識・技術を育むだけでなく、制作の過程において「考える力」「伝える力」を身に付けられるカリキュラムを実施しています。

例えば、「MaKids感謝祭」というイベントでは、生徒たちが教室単位のグループで一つの作品を制作して200人以上の前で発表します。生徒たちが「リーダー」「プログラマー」「デザイナー」などの役割を分担した上で制作することで、コミュニケーション能力や役割を果たすためにすべきことを考える力を身に付けることができます。

スクールと放課後デイでの活動

MaKidsでは「子どもたちの個性を見つける・伸ばす・活かす」を大切に、自教室にとどまらず、公立小学校や主催イベント、他教室でもプログラミング教育を実施しています。最近では、放課後等デイスクールのカリキュラムとして授業を行っています。これからも、より多くの場所で多くの子どもたちにプログラミング教育を届けていきたいと思っています！

株式会社S&F PARTNERS / スクール、イベント、IoTサービス

代表 櫻木 翔太 WEB <http://www.sf-partners.jp/>

電話 078-806-8596 メール info@sf-partners.jp

住所 神戸市須磨区千守町1-5-41 Suma house B号室



櫻木 翔太
Sakuragi Shota

高専卒業後、大原簿記専門学校で理系分野の講師を経て、税務会計事務所で地元企業の財務を中心に経営に携わる。独立後、コンサルティング事業、教育事業を展開。2016年12月に株式会社S&F PARTNERS設立、翌年4月にロボットプログラミング教室MaKids開講。著書に「先生と子どもがいっしょに学べるはじめてのプログラミング」(2018年4月発行)。

INFORMATION パートナーズ 集まれ

神戸発 およこ防災教室

ウイルスに負けないよう 暮らしの中で免疫力アップを

新型コロナウイルスによる感染症が世界各地で広がっています。感染拡大の防止には、私たち一人一人が予防対策に取り組むことが不可欠です。こまめな手洗い、うがいに加え、免疫力を高めることも大切。日々の生活の中で取り入れられる免疫力アップの方法をいくつか紹介します。

1 副交感神経を 優位にする

副交感神経は血管を広げて血の流れを促したり、リンパ球を増やして免疫力を高めてくれる働きがあります。そのためには、「ウォーキングやヨガなど適度な運動をする」「食事はゆっくりとよくかんで食べる」「風呂にゆったりつかってリラックスする」などを心掛けるとよいでしょう。

2 免疫力を 高める 食事を取る

体を温める働きのある根菜類や腸内細菌を整える食物繊維の多い大麦がおすすめです。

3 よく笑う

笑うことで免疫力が高まります。作り笑いにより口角を上げるだけでも健康効果が得られることが医学的にも分かっています。



暴飲暴食、睡眠不足、冷えなども免疫力が下がる原因となりますので注意が必要です。感染をただ恐れるのではなく、ウイルスに負けないようリラックスできる時間をつくる工夫をしましょう。

清水 玉青
Shimizu Tamao

2人の息子の子育て中。好奇心旺盛でさまざまな資格を持つ。学生時代、ソロバイクツーリングが趣味だったのをきっかけに、キャンプ、スキー、水遊びなどアウトドアレジャーが趣味に。現在、地域で学習支援などのボランティアを行っている。



声 被災地は今

元通りに与える
ということ...!?

地震や台風、豪雨による被害など、今や日本のどこにいても安心とはいえない状況です。そういつた中、東日本大震災はすでに忘れ去られているのではないかと心配があります。

陸前高田では、被災した道の駅が別の場所でもオープンしたり、「東日本大震災津波伝承館」ができた、新しい施設ができたというニュースを目にした方は多いと思います。しかし、これらの施設はどちらかといえば、ここに住んでいる人たちのためのものでありません。もちろん市民のための文化会館や市役所ができる予定ですが、野球場もサッカー場もキャンプ用施設も。

震災以前にあったものは造るという計画のようですが、それでいいのでしょうか？ からの超高齢社会、人口減少社会を考えたときに何が必要か...

私たちは、人と人のつながり、コミュニティづくりが必要であると考えます。東北で開催している「おらほアート展」は、手作りを通じた仲間づくりとコミュニティづくりを目指しています。手芸を通じた心の通った仲間がいればどんなに心強いことでしょうか。そのつながりは心を癒やし、豊かにもしてくれます。

ちなみに「おらほ」とは、男女問わず「私の、私たちの」という意味の方言。

神戸の皆さんとのつながりを続けながら、さらに大きなつながりをつくっていきたくと考えています。一度「おらほアート展」に遊びにいらしてください！

Home of Wisdom
代表 長友智郷

編集後記にかえて

「NPO法人輝すずらん」
設立二十周年
おめでとうございます。

1995年1月、阪神・淡路大震災を機にPTA仲間と始めたボランティア。避難所での半年と避難所から仮設住宅へそして復興住宅への引越し支援活動でさまざまな課題に直面しました。災害時に顕在化する課題は、地域社会がすでに抱えていたものかもしれません。その頃「2025年問題」が話題になり始めました。自分たちの老いた姿を地域に重ね合わせてみると、ふれあい喫茶・家事支援・外出介助・配食サービス...ないものばかり。「欲しいものは自分たちで作ればいいじゃない！」という声でNPO法人設立の原動力となりました。あれから二十余年、「コロナ禍の中、外出自粛要請や感染防止対策などで買物もままならない高齢者にとって「配食」は命をつなぐサービスになっています。

先日、明舞団地で2003年からふれあい食堂や配食と見守り活動を行っている「NPOひまわり会」(代表入江一恵さん)の「食からひろがる地域のつながり」という活動事例を学びました。「料理は得意でも配達ボランティアを募るのが大変。存続の課題」と伺いました。「コロナ禍対策の一つとしてUber Eatsと協定を結び支援する施策を行う自治体もあるようです。地域住民による配食サービスにもご支援をお願いしたいものです。」

(パートナーズ編集部)

住まい探しの
困った!
をお手伝い

配慮が必要な方への

居住支援事業 を始めました

神戸コミュニティラボ(一般社団法人パートナーズ)は2019年8月の「ひょうご居住支援団体発掘・育成事業」を経て、本年度、4月1日に兵庫県から「ひょうご居住支援法人」の指定を受け、本格的に居住支援事業を始めました。超高齢社会を迎えた今、ライフステージに合わせて住み方を変えようと思っても、年を重ねるたびに住まい探しのハードルは高くなるばかり。高齢者をはじめ日本で暮らす外国籍の方やひとり親家庭など配慮が必要と思われる方の住まい探し、入居手続きや入居後の見守りなど生活支援のコーディネートをお手伝いします。



居住支援研修会

居住支援事業を所管する兵庫県、神戸市の協力をいただき、地域の賃貸住宅オーナーや管理会社など不動産関係者をはじめ、社会福祉法人、地域福祉の担い手NPOなど福祉関係の皆さまと一緒に居住支援制度の周知、協力体制とネットワークの構築を目指して開催します。

場所 こうべまちづくり会館 2階ホール
(神戸市中央区元町通4-2-14)

時間 午後2時～4時

定員 25人(要予約)

参加費 無料

申し込み partners.kobeclub@gmail.com
078-585-9180

※マスク着用、手指消毒にご協力ください

終了
8/25 火
ひょうご居住支援事業活動紹介1
村山 メイ子さん
認定NPO法人東灘地域助け合いネットワーク 代表
橋本 修一さん 兵庫県住宅政策課

終了
9/22 火祝
ひょうご居住支援事業活動紹介2
高齢者住宅
須見 恭子さん NPO法人花たば 理事長
橋本 修一さん 兵庫県住宅政策課

10/27 火
ひょうご居住支援事業活動紹介3
宗政 美穂さん NPO法人西須磨だんらん 事務局長

11/24 火
ひょうご居住支援事業活動紹介4
寺内 真子さん
公益財団法人神戸YWCAまごの手 所長

1/19 火
ひょうご居住支援事業
～終活を考える 成年後見人制度～
宇根 晴美さん
一般社団法人こうべ福祉あいねっと・社会福祉士

電話・対面相談

法人事務所
神戸市中央区上筒井通1-5-14 ベレオ王子公園101
TEL 078-585-9180 相談日時 随時(要予約)

サテライト事務所(こうべまちづくり会館)
神戸市中央区元町通4-2-14 ワークスペース501
TEL 078-585-9180 相談日時 水曜日以外(要予約)

まちづくり相談所
神戸市兵庫区御崎町1-2-4
TEL 070-5341-3539 相談日時 第3土曜日午後1時～4時

モダンクギャラリー
神戸市中央区北長狭通3-11-15
TEL 070-5341-3539 相談日時 毎週水曜日午後1時～4時

資源有効活用ショップ「For2ndHands」
神戸市中央区筒井町3-5-16
TEL 070-5341-3539 相談日時 毎週火・金曜日午後1時～4時

花たばネット事務所(協力:NPO法人花たば)
神戸市灘区水道筋6-7-14
TEL 078-801-6632 相談日時 毎週木曜日午後1時～4時

森の小さなカフェレスト「グローブ」(協力:NPO法人輝ナビ北神)
神戸市北区有野町2753-1(北神戸田園スポーツ公園内)
TEL 078-952-0306 相談日時 毎週月・金・土・日曜日午後1時～4時



講座
文芸

知られざる神戸②
オリーブと神戸

最近、日本でもフランスパンなどにバターの代わりにバージン・オリーブ・オイルを使う人が増えています。健康に良いことから一気に広まりました。

オリーブというと小豆島産が有名ですが実は、国産初は神戸です。郷土史家落合重信の『埋もれた神戸の歴史』や湊川神社の「日本最古・湊川神社オリーブ樹」の現地解説板などによると、1873(明治6)年、ウィーン万博事務副総裁だった佐野常民が、オリーブを持ち帰り兵庫県公館付近にあった「兵庫県立神戸植物試験場」に植えたのが日本のオリーブの始まりです。このオリーブは残念ながら伐採されて今はありません。1878(明治11)年に開催されたパリ万博日本館館長、前田正名が仏国産オリーブ2,000本を東京・三田育種場に持ち帰りました。そのうち550本を神戸山本通(今の神戸北野ホテル(川崎造船所創始者川崎正蔵邸跡)付近)に造成した「三田育種場神戸支園」に植栽しました。1882(明治15)年、武庫離宮(現須磨離宮公園)の庭園設計者、福羽逸人がこのオリーブから日本初の塩蔵製品製造と搾油に成功。ついで1884(明治17)年、神戸支園は「神戸阿利禰園」と改称。その後、福羽は小豆島のオリーブの栽培と搾油を指導しました。

神戸布引ハーブ園でも紀元前から人間の生活とともに生きてきた有用植物として何本か植え、その象徴としてロープウェイの山頂駅広場に開園当時、武蔵野美術大学教授鈴木久雄のオリーブの彫刻『錐形の時間』を設置しました。

「神戸阿利禰園」はすでにありませんが、オリーブは市民生活に浸透していきました。神戸の街角でオリーブの樹をよく見かけます。

元号が「令和」になりましたが、穏やかな平和な時代であってほしいと願っています。ノアの方舟の鳩がくわえていたのはオリーブの枝。まさにオリーブは安全と平和を願う樹なのです。

知られざる神戸の樹として大切にしていきたいですね。



「湊川神社のオリーブの大樹」神戸阿利禰園のオリーブといわれている



野元 正 Nomoto Tadashi

東京都生まれ、明石市在住。京都大学農学部林学科(造園学・環境デザイン)卒業。元神戸市建設局公園防部長。第4回小谷剛文学賞佳作賞(1995年)、第3回神戸エルマール文学賞(2009年)、平成28年度神戸市文化賞(2016年)受賞。第1～4小説集「花を巡る文学散歩」監修。

一般社団法人
パートナーズ

豊かな文化を築く
パートナーズ神戸倶楽部

地域福祉を考える
神戸コミュニティラボ
ひょうご居住支援法人(兵医支0010号)

〒651-0061 法人事務所
神戸市中央区上筒井通1-5-14
ベレオ王子公園101

〒650-0022 サテライト事務所
神戸市中央区元町通4-2-14
こうべまちづくり会館 ワークスペース501
TEL 078-585-9180
E-mail partners.kobeclub@gmail.com
HP www.partners-kobe.com

兵教大発
まあるく子育て
兵庫教育大学
「まあるく子育て」編集委員会・編著
家族の子育てを応援!

子どもにとって何が必要なのか迷っている方へ。幼児教育に関わる大学教員が、生活習慣や遊び方などについて解説。

定価 1,296円(税込) **好評発売中**

癒やしの丘で
兵庫県立神出学園の不登校支援
神戸新聞総合出版センター・編
若者たちは、神出の丘で
元気を取り戻していく

不登校で行き場をなくした若者をケアする全国の公立フリースクール・神出学園。一人一人の学園生を支える支援ノウハウを全力取材。

定価 1,728円(税込)

神戸新聞総合出版センター 078-362-7138 078-361-7552
メール syuppan-hb@kobe-np.co.jp